



おとがわ



ふお～ゆ～

校長室だより

第 181 号

R6.11.8

文責 中西 勉



### 校内学芸会 ～下見の会からの大きなレベルアップ～

昨日、校内学芸会を行いました。会の最初に、私は男川っ子に向けて、「今日の目標は、『全力』です。演技をする時も、発表を見る時も、拍手をする時も、係の仕事をする時も、全て全力でやりましょう」と話をしました。その私の呼びかけに応えるかのように、男川っ子は多くの場面で全力の姿を見せました。特に、演技の面では、

10月下旬の下見の会に比べて、どの学年・学級も、声の大きさ、せりふの言い回し、顔の表情や身振りなど、どれをとっても大きくレベルアップしていました。明日の学芸会本番が、ますます楽しみです。



▲4-3 (杖の中ほどを持ち、腰を深く曲げて歩くことで、老人の雰囲気は格段に高まった)



▲6-2 (座敷童の個別のポーズを決めて演じることで、キャラクターが際立つようになった)



### 史上最大の下克上 ～横浜 DeNA ベイスターズの選手の主体性～

11月3日(日)、プロ野球日本シリーズで、横浜 DeNA ベイスターズが、福岡ソフトバンクホークスに、2連敗の後に4連勝し、日本一に輝きました。今シーズン、ベイスターズは、セ・リーグ3位(勝率.507、貯金2)でしたが、パ・リーグ1位(勝率.650、貯金42)のホークスに勝ちました。この大逆転劇は、「史上最大の下克上」とも称されています。しかし、なぜベイスターズはこれほど劇的な勝利を収めることができたのでしょうか。その背景には、次のような選手の主体的な動きがありました。

2連敗を喫した後、筒香選手が「このままではだめだ。みんなで話し合おう」と提案し、選手会長の牧選手がみんなを集めました。そして、最初に筒香選手が「みんなプロなので、個人の成績を出すために準備をして、フィールドに立つのは当たり前。それじゃあ何を変えるかと言えば、みんながお互いをサポートし合わないといけない。ソフトバンクはやっぱり凄く強い。普通にやったら負ける。だから、自分たちは束になることでしか勝つことができない。だから、束になる強さをもう一度、みんなで意識して行かないとダメだと思う」と語りました。そして、普段はみんなに語りかけるタイプではない宮崎選手も「とにかくチームとして何かを得て終わろう。そこにトライしないと勝てないから、どんどんみんなでやっぺいこう」と選手の結束を訴えました。この選手たちの主体的な話し合いによってチームの雰囲気はガラリと変わり、日本シリーズ全体の流れを大きく変えることにつながりました。

今日の一斉下校で、私は男川っ子にこの話をしました。明日の学芸会で、子供たちの主体的な姿が見られることを期待して・・・。



▲史上最大の下克上を成し遂げたベイスターズ